

鏡野町の奇岩・巨岩②

今回も、町内に残されている奇岩・巨岩について紹介します。

①立岩（羽出）

町指定文化財（天然記念物）。羽出の森林公園へ向かう県道羽出三朝線の大柱付近の山裾に花崗岩の大岩があります。



立岩



銭星岩



箱岩

特徴的な石です。

この岩にも伝説があり、昔、鬼がふところにもこの石を入れてやって来たところ、竜が現れ、これに驚いて鬼が逃げた時にふところから落とした岩がこの立岩であると言われている、「ふところ岩」とか「たもと岩」「鬼岩」とも呼ばれています。

立岩の真下には田代峠越えの旧道が今も形を残し、傍らには明治時代に私財を投じてこの道の改修を行った羽出の伊丹健治郎の功績を称える碑があります。

②銭星岩（至孝農）

町指定文化財（天然記念物）。奥津振興センターの南、国道一七九号下木原橋下手東側の水田の傍らにあります。高さ約1m、幅約1・8mの花崗岩の岩で、片面の岩肌が奥行き五〇六cm、幅一五〇二〇cmの無数の階段状になっています。この岩も『作陽誌』に記述がありますが、「由緒はわからない」とされています。地域に伝わる伝説では、昔、この辺りに長者が住んでおり、この岩の階段状の部分に銭を並べて乾かしていたと言われており、「銭星岩」という名前もこのことにちなんでいるのではないかと思われます。別名「大黒様の腰掛け石」とも呼ばれています。

③箱岩（函岩）（箱）

町指定文化財（天然記念物）。国道一七九号から富方面へ向かう箱岩橋を渡ってすぐの右側に樹木に覆われた巨大な岩塊が存在します。この重なり合った岩塊の隙間が箱形になっていったことからこの名前が付いたものと思われます。箱岩も『作陽誌』の中に記述があり、そこには、

陰陽師として有名な安倍晴明と蘆屋道満が日本地図をこの箱岩の中に納めていたと書かれています。晴明や道満といえ、平安時代に朝廷で活躍し、現在でも小説や映画等でも人気の人物です。こうした人物がこの地で何かを行ったということはないはずなのですが、江戸時代の書物に書かれているということは、それ以前からすでにこのような言い伝えが残されていたということで、伝説の由来を考えると非常に興味深いです。「箱」の地名もこの箱岩が元になると考えられますので、古くから地域のシンボルとして注目されていたことが想像できます。

この他にも、ここから北にある西屋城の武器の隠し場所や抜け穴だったとか、入ると頭痛が起るなどさまざまな言い伝えがあります。

箱岩は、江戸時代末期の安政の大地震で通路がふさがり、入ることができなくなったといわれ、現在では大人が入るには狭い隙間が確認されるのみです。

苦田ダム完成前に試験湛水でダム湖を満水状態にした際は、箱岩もいくらか水に浸かってしまうおそれがあり、崩落が懸念されましたが、幸い何の影響もなく現在も以前と変わらず姿で佇んでいます。

参考資料：『作陽誌』『奥津町の文化財』『鏡野町伝説紀行』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733